

**VIII29-13 突発的な騒音が乳用牛の乳量に及ぼす影響**

**○谷原 礼諭 1、高橋和裕 2**

**1 香川県農政水産部農業経営課、2 香川県畜産試験場**

【目的】突発的な騒音がホルスタイン種泌乳牛に与える影響について調査した。【方法】供試牛は鉄骨断スレート造りタイストール牛舎内で飼育するホルスタイン種泌乳牛17頭である。配合飼料は自動給餌器で概ね4時間毎に1日6回に分けて給与し、粗飼料は不断給餌した。搾乳は、毎日午前9時及び午後4時に実施し、乳量、臨床症状を確認した。突発的な騒音は、午後7時50分から午後8時までの10分間であった。【結果】騒音レベル：騒音の最大レベルは、音源により近いストール北側で101.9db、南端で101.6dbであった。この騒音レベルは、国の定める環境基準を大きく上回るものであった。行動：突発的な騒音が起こる直前には、横臥安静状態であったが、騒音が始まるとともに立ち上がり不安挙動を示した。摂食状況：騒音後は食欲不振傾向を示したが、ほとんどのウシで摂食量が回復した。乳量：個々の泌乳量の推移では、騒音があった次の日は増加し、2日目から5日目まで減少傾向を示した。6日目以降、泌乳量は回復傾向を示し、概ね12日目で騒音日以前の乳量に回復した。騒音があった日から5日後の乳量は騒音以前の乳量より有意に低い値を示した。

日本畜産学会第122回大会